

Title	政治的リーダーシップと政党ガバナンス：戦前日本における二大政党の権力構造
Sub Title	Political leadership and party governance : power structure of two party system in post-war Japan
Author	清水, 唯一朗(Shimizu, Yuichiro)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究では、2018年に100周年を迎える原敬内閣にいたる二大政党制における政治的リーダーシップの形成と政党ガバナンスのあり方について研究を進めた。具体的には、原敬のリーダーシップと立憲政友会の政党ガバナンスを、最大野党である憲政会のそれと比較するかたちで調査を行った。 具体的な成果としては、明治初期における藩閥と旧幕府・賊軍の関係からときはじめ、その部分は『東京人』に掲載された原稿として公表することができた。同稿は英訳され、インターネット上でも公開されている。 同じく100周年を迎えている第一次世界大戦との関係では、國立台北大學日本研究中心で行われた国際会議「國家政策與經濟發展」において、東アジアの日本研究者たちと議論を深め、ブエノスアイレス大学で開かれた国際ワークショップ"The Great War seen from the 'Periphery', East Asia and Ibero-America"では、第一次世界大戦における辺境という視点から、欧州の政党政治、政官関係との比較を行い、ドイツ、ベルギー、イギリス、ポルトガル、アルゼンチン、中国からの研究者と議論を広げることができた。現代との比較の文脈では、目下話題となっている政官関係について「150年目の政官関係」(『公研』646号)。「【完全解説】日本の「国家」を作った官僚たち。150年目の異変」(Newspicks)などで、原内閣における政官関係との比較で論じ、北京大学政府管理学院、人事院公務員研修所などの講演でも広く知見を提供することができた。 本研究の内容については、すでに2018年5月にボストン、6月にトルコ、10月に日本政治学会での報告と同年末の著書刊行が決まっている。来年度もこの内容を継続して、より大きな成果につなげていきたい。 In this research project, I tried to explore the power structure of two party system in post-war Japan from the view point of political leadership and party governance. To be more precise, comparing Hara Takashi's Rikken Seiyukai party and Kato Takaaki's Kenseikai party. As the result in this academic year, publishing an article about Meiji Revolution's power shift(in Japanese). It have already been translated in English, and uploaded on the website of the ministry of foreign affairs. Related with the 100 years anniversary of WW1, I did two international presentation in Taipei and Buenos Aires, comparing Japanese politico-bureaucrat relationship and European's one. For the context of comparing the status-quo, two articles and two lecture I did about this topics. It is on the schedule of 2019 academic year that I make presentations in Boston, Turkey, JAPS, and publish a book. I will continue this issue in coming year and make much more result.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170130

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	総合政策学部	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	清水 唯一郎	氏名 (英語)	Yuichiro Shimizu		
研究課題 (日本語)						
政治的リーダーシップと政党ガバナンス—戦前日本における二大政党の権力構造						
研究課題 (英訳)						
Political Leadership and Party Governance: Power Structure of Two Party System in Post-war Japan						
1. 研究成果実績の概要						
本研究では、2018 年に 100 周年を迎える原敬内閣にいたる二大政党制における政治的リーダーシップの形成と政党ガバナンスのあり方について研究を進めた。具体的には、原敬のリーダーシップと立憲政友会の政党ガバナンスを、最大野党である憲政会のそれと比較するかたちで調査を行った。 具体的な成果としては、明治初期における藩閥と旧幕府・賊軍の関係からときはじめ、その部分は『東京人』に掲載された原稿として公表することができた。同稿は英訳され、インターネット上でも公開されている。 同じく 100 周年を迎えている第一次世界大戦との関係では、国立台北大学日本研究中心で行われた国際会議「国家政策與經濟發展」において、東アジアの日本研究者たちと議論を深め、ブエノスアイレス大学で開かれた国際ワークショップ「The Great War seen from the 'Periphery', East Asia and Ibero-America」では、第一次世界大戦における辺境という視点から、欧州の政党政治、政官関係との比較を行い、ドイツ、ベルギー、イギリス、ポルトガル、アルゼンチン、中国からの研究者と議論を広げることができた。 現代との比較の文脈では、目下話題となっている政官関係について「150 年目の政官関係」(『公研』646 号)。「【完全解説】日本の「国家」を作った官僚たち。150 年目の異変」(Newspicks)などで、原内閣における政官関係との比較で論じ、北京大学政府管理学院、人事院公務員研修所などの講演でも広く知見を提供することができた。 本研究の内容については、すでに 2018 年 5 月にボストン、6 月にトルコ、10 月に日本政治学会での報告と同年末の著書刊行が決まっている。来年度もこの内容を継続して、より大きな成果につなげていきたい。						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
In this research project, I tried to explore the power structure of two party system in post-war Japan from the view point of political leadership and party governance. To be more precise, comparing Hara Takashi's Rikken Seiyukai party and Kato Takaaki's Kenseikai party. As the result in this academic year, publishing an article about Meiji Revolution's power shift(in Japanese). It have already been translated in English, and uploaded on the website of the ministry of foreign affairs. Related with the 100 years anniversary of WW1, I did two international presentation in Taipei and Buenos Aires, comparing Japanese politico-bureaucrat relationship and European's one. For the context of comparing the status-quo, two articles and two lecture I did about this topics. It is on the schedule of 2019 academic year that I make presentations in Boston, Turkey, JAPS, and publish a book. I will continue this issue in coming year and make much more result.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
清水唯一郎	「政治発展と戦後経営」	「国家政策與經濟發展」国際会議	2017 年 6 月 16 日			
Yuichiro Shimizu	「The First World War, as The Turning Point of Modern Japan」	International Workshop 「The Great War seen from the 'Periphery', East Asia and Ibero-America」	2017 年 7 月 26 日			
清水唯一郎	「復古か、革命か、革新か—勝者の僥倖と敗者の努力」	『東京人』392 号	2018 年 1 月 4 日			
Yuichiro Shimizu	「Restoration, Revolution or Reform? — The Unexpected Fortune of Winners and Tenacious Efforts of Losers」	Discuss Japan No.43	2018 年 2 月 25 日			